



文化庁委託事業「平成30年度戦略的芸術文化創造推進事業」
新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ

西村 朗

紫苑物語

Asters

新制作・創作委嘱作品・世界初演

2019年2月17日(日)~24日(日) 会場:新国立劇場オペラパレス

【2018年10月20日(土)前売開始】



トム・シェンクによるセットプラン

私の人生を射ぬくのは魔の矢か、それとも.....新国立劇場から世界に放つ新作オペラ

日本人作曲家の新作オペラを世界に問いかけるべく、大野和士芸術監督の大きな柱、“日本人作曲家委嘱作品シリーズ”がスタートします。第1弾には石川淳の代表作を現代音楽で日本屈指の作曲家・西村朗が詩人の佐々木幹郎とオペラ化する『紫苑物語』が登場します。

演出を手掛けるのは、演出家・俳優としてフランスを中心に活躍する笈田ヨシ。ヨーロッパで数多くの演劇、オペラを手掛けてきた笈田が、石川淳の骨太な美学、幻想と現実が交錯する壮大なスケールの物語をどのように描き出すか、大きな注目が集まります。美術・衣裳・照明は、笈田が信頼するデザイナー達を海外から招聘し、現代的なセンスと技術を駆使した幻想的なステージが展開します。

大野和士が芸術監督就任後はじめてタクトを執り、オーケストラオピットには大野が音楽監督を務める東京都交響楽団を迎えます。新たな傑作オペラの誕生に、ぜひ新国立劇場でお立会ください。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709

E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

私の人生を射めくのは魔の矢か、それとも……石川淳の骨太の美学をオペラ化

昭和を代表する作家・石川淳(1899～1987年)、『紫苑物語』(1956年発表)は戦後、坂口安吾や太宰治とともに「無頼派」と称された石川淳が王朝期に舞台をとって書いた小説で、歌の家に生まれた国司の宗頼が歌を捨て弓の道を見出し、己の鏡ともいべき仏師・平太と出会い、その仏を射ると岩山もろとも崩落するという物語。簡潔な文体の象徴的な短編に、石川淳ならではのダイナミズム、壮大な世界観が満ちています。

迷いながら自己克服をしていく芸術家の主人公・宗頼、腹心でありながら裏切りの野心に燃える藤内、情欲と権力欲を象徴するうつろ姫、異界から現れた謎めいた女・千草、父や叔父との確執、そして乗り越えざるを得ない自己の鏡である平太といった登場人物の人物造形、さらに岩山の崩落という大スペクタクル、その後に残る“鬼の歌”、殺戮の後に咲く紫苑(“忘れな草”)と桃源郷に咲く“忘れ草”——『紫苑物語』はいにしへの日本を舞台としながらも、世界へ発信するオペラの題材にうってつけの普遍性を持ちます。幻想的な異界と現実世界が交錯する物語は、まさにオペラでこそ表現できるスケールです。

西村朗ら屈指のクリエイターが出会い誕生するオペラ『紫苑物語』、完成迫る

現代日本を代表する作曲家の西村朗、西村とタッグを得た経験もある詩人の佐々木幹郎、それに東西の芸術に通じ、フランスを拠点に活躍する演出家の笈田ヨシというチームを得て、オペラ『紫苑物語』が船出しました。

その創作段階では、作曲家の西村と台本作家である佐々木の間ではもちろん、芸術監督であり初演の指揮をする大野も交え協議が重ねられ、更には笈田ヨシの演出プランとの擦り合わせも経て、作曲が進められてきました。ソリスト一人ひとりとのセッションも行い、音楽的構成、劇的効果を綿密に検証しながら、いよいよ完成へと近付いています。

西村の音楽は、「同時に何人も的人物が全く違う感情を歌うことで劇的シーンを構築できる」というオペラならではの特性を生かしたい」という大野の要望を受け、特に重唱を重視。また、声楽的な超絶技巧が凝らされており、歌手の技量の見せ所となる“猛烈なアリア”も注目ポイント。ライトモチーフや音色のコントロールで象徴的な物語を進めていく、西村ならではのオーケストレーションにも期待が高まります。

笈田ヨシのもと世界の歌劇場で活躍する一流デザイナーが集結、オペラパレスをイリュージョンで包む

演出を手掛けるのは、演出家・俳優としてフランスを中心に活躍する笈田ヨシ。三島由紀夫の最後の弟子でもあり、昭和期の混沌とした文化の真ただ中を経験し、渡欧後はピーター・ブルックらと世界で活躍、日本の古典芸能や禅に精通しながら、現在はヨーロッパで俳優、演出家として活躍する笈田は、オペラ演出でも世界的に知られており、大野とはリヨン歌劇場『ピーター・グライムズ』で仕事をしています。

美術デザインはキリアンやフォーサイスのデザインを経て欧州各地の劇場で演劇、オペラの美術で活躍するトム・シェンク、衣裳デザインはあの『ライオンキング』でトニー賞を受賞、世界の一流劇場のオペラ、演劇、バレエの話題作の数々を手掛けているリチャード・ハドソン、照明のルッツ・デッペは写真家出身、劇場での作品のほかに世界的アートイベントのライティングも多く手掛けているマルチなデザイナーです。技術を駆使して、精神的葛藤や暴力的衝動、官能、崩壊、鎮魂と象徴的なシーンが次々展開する幻想的な舞台を創り出します。



トム・シェンクによるセットプラン

大野和士芸術監督が監督として初めて指揮。実力派キャスト、東京都交響楽団との火花散る演奏に注目

大野和士が芸術監督就任後初めてタクトを執る『紫苑物語』、ピットには大野が音楽監督を務める東京都交響楽団を迎えます。

キャストには、宗頼にドイツ・キール歌劇場専属歌手として活躍し、世界的注目を集めているバリトン高田智宏、狐の化身“千草”は美声と感情表現に定評のあるソプラノ日木あい、権勢欲に憑かれた“うつろ姫”には、日本を代表するメゾとして躍進中の清水華澄、個性的な役柄“藤内”に国内トップ・テノールの村上敏明、後半の物語を左右する平太にはスケールの大きな歌唱で注目されるバリトン大沼徹が出演します。弓の道を導く叔父には河野克典が久しぶりの登場、宗頼と対立する父には小山陽二郎が出演。実力派出演者達の大きな挑戦、火花散る演奏は、オペラファンならずとも聞き逃せません。

◆オペラ「紫苑物語」あらすじ

【第1幕】舞台は平安時代。歌の名家に生まれた国司の宗頼と、権勢を振るう家の娘うつろ姫の婚礼の儀が執り行われている。歌の道を捨てて弓術に邁進する宗頼を父は責め、宗頼は彼の妻に身持ちの悪いうつろ姫をあてがわれたことに怒る。叔父で弓の達人弓麻呂は、歌の血が濃い間は第一の矢(知の矢)、第二の矢(殺の矢)の奥義を悟ることはできないと告げ、うつろ姫の寝所の男を射殺す。宗頼も次の男を射殺すが、うつろ姫は意に介さない。宗頼の家来、藤内はこの様子にうつろ姫を利用して国を支配する野望を燃やす。狩りに出た宗頼は怪しい魅力を持つ千草と出逢う。

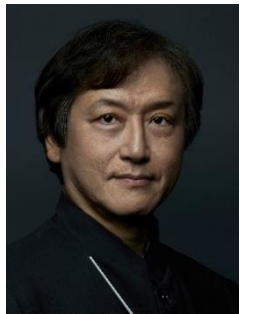
【第2幕】千草の虜となる宗頼。月の光に照らされ、千草が狐の化身であることがわかる。狐の妖術に触れた宗頼は第三の魔の矢を悟り、叔父の弓麻呂を射殺す。藤内はうつろ姫と通じ、国司を狙う。一方、忘れ草を求めて宗頼は弓に化けた千草とともに山へと向かう。山の中では岩山に仏の顔を彫る平太が一人で暮らしている。宗頼が平太の彫った仏の顔を射ると、宗頼諸共岩山が崩れ落ちる。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>**【作曲】西村 朗****Music by NISHIMURA Akira**

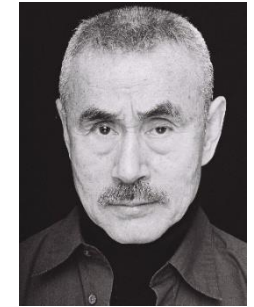
東京藝術大学卒業。同大学院終了。西洋の現代作曲技法を学ぶ一方で、アジアの伝統音楽、宗教、美学、宇宙観等に強い関心を抱き、そこから導いたヘテロフォニーなどのコンセプトにより、多数の作品を発表。日本音楽コンクール作曲部門第1位(74)、エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞(77)、ルイジ・ダツラピッコラ作曲賞(77)、尾高賞(88・92・93・08・11)、京都音楽賞(91)、日本現代芸術振興賞(94)、エクソンモービル音楽賞(01)、サントリー音楽賞(04)、毎日芸術賞(05)等受賞多数、2013年には紫綬褒章を授与される。この他、02年度芸術祭大賞、05年度芸術祭優秀賞に作品が選ばれている。1993～94年、オーケストラ・アンサンブル金沢、1994～97年、東京交響楽団のコンポーザー・イン・レジデンス。2000年よりいづみシンフォニエッタ大阪、及び2010年草津夏期国際音楽フェスティバルの音楽監督。2007年東京オペラシティ「コンポジウム 2007」のテーマ作曲家。NHK-FM「現代の音楽」「N響アワー」司会など放送でも活躍。海外でもウルティマ現代音楽祭(オスロ)、「ノルマンディの10月」音楽祭(ルーアン)などの多くの新作委嘱のほか、ウィーン・モデルン音楽祭、「ワルシャワの秋」現代音楽祭等で作品が演奏されており、コンクールの審査委員も務めている。東京音楽大学教授。

**【指揮】大野和士****Conductor: ONO Kazushi**

東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアの「トスカニーニ国際指揮者コンクール」優勝。以後、世界各地でオペラ公演ならびにシンフォニーコンサートの客演で聴衆を魅了し続けている。90～96年クロアチア、ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年ベルギー王立歌劇場(モネ劇場)音楽監督。12～15年イタリアのアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団ならびにバルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは、07年6月にミラノ・スカラ座デビュー。その後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭への出演などが相次いでいる。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣 新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年5月、大野和士が9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス 2017」を獲得。6月にはフランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受勲。同時にリヨン市からもリヨン市特別メダルが授与された。16年9月より新国立劇場オペラ芸術参与。18年9月よりオペラ芸術監督。

**【演出】笈田ヨシ****Production: OIDA Yoshi**

文学座、劇団四季を経て、1968年よりピーター・ブルック率いる国際演劇研究センターに所属。以後パリを拠点に俳優、演出家として活躍している。俳優としては、ピーター・ブルック演出『オルガスト』(71年)、『マハーバーラタ』(87年)、『ザ・マン・フー』(97年)サイモン・マクパーニー演出『春琴』(08年)、串田和美演出『三人吉三』(14年)、ドリアン・ロッシ演出『東京物語』(16年)などの舞台、『ピーター・グリーナウェイの枕草子』(96年)、『最後の忠臣蔵』、『沈黙』、『ラストレシビ〜麒麟の下の記憶』などの映画に出演。演劇の演出家としてはダンテ『神曲』(82年)安部公房『砂の女』(95年)三島由紀夫『サド侯爵夫人』(96年)ベケット『勝負の終わり』(97年)ジュネ『女中たち』(01年)フォッセ『秋の夢』(01年)など、ウィーン・ブルク劇場、ベルリン・シャウビューネ、ローマ・トラヴェステレ劇場などのヨーロッパ各地で活躍。近年はオペラ・音楽劇の演出にも進出し、ポロニヤ歌劇場『ナブッコ』(06年)、オールドバラ音楽祭『ヴェニスに死す』(07年)、ポツダム、ビーレフェルト、メキシコ・モンテレー『冬の旅』(07年)、『ドン・ジョヴァンニ』(09年)、『真珠採り』(12年)、東京芸術劇場ほか『蝶々夫人』(16年)、『戦争レクイエム』(17年)などを手掛けている。著書も多く、十数か国語に翻訳され世界中で読まれている。フランス文化勲章シュヴァリエ(92年)、オフィシエ(07年)、コマンドン(13年)を受章。新国立劇場初登場。

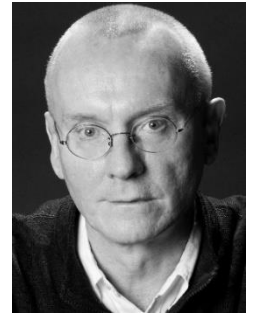
**【美術】トム・シェンク****Set Design: Tom SCHENK**

オランダ出身。ダンサーを経て1976年よりデザイナー活動を始め、イリ・キリアン、ウィリアム・フォーサイスらの振付家のもと、バレエやダンスの美術を手掛ける。その後オランダの劇団、さらに国外の劇場で活躍し、シャウビューネ、ミュンヘン室内劇場、バイエルン州立劇場、ウィーン・フォルクス劇場、ベルリン・ルネサンス劇場などのヨーロッパの劇場やオペラで、Erik Vos, Antoine Uitdehaag en Johan Doesburgらの演出家の美術を手掛ける。最近では、ハーグのナショナル・シアターで『Genesis』、ベルリン・ルネサンス劇場で『Der letzte Vorhang』、Hummelink Stuurman productions『Wie is er bang voor Virginia Woolf』などをデザインした。笈田ヨシとの作品では、フランス、イギリス、オーストラリア、イタリア、チェコ、カナダ、スウェーデン、フィンランド、日本において、オールドバラ音楽祭、エジンバラ音楽祭ほかの『ヴェニスの死』、オペラ・コミック座『真珠採り』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『The Pilgrim's Progress』、リヨン歌劇場『ピーター・グライムズ』、ストラスブル・ラン歌劇場『Yumè』、イェーテボリと日本で『蝶々夫人』をデザインしている。ほかにオペラでは、ブラハ国立歌劇場『イドメネオ』、ストラスブル・ラン歌劇場『ゲーテンバルクの夢』がある。2009年にチェコの Alfréd Radok Award 最優秀舞台美術賞受賞。新国立劇場初登場。



【衣裳】リチャード・ハドソン**Costume Design : Richard HUDSON**

ジンバブエ出身。ウィンブルドン芸術学校で学ぶ。グラインドボーン音楽祭、英国ロイヤルオペラ、メロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、フィレンツェ歌劇場、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ケント・オペラ、ウィーン国立歌劇場をはじめミュンヘン、シカゴ、コペンハーゲン、アテネ、アムステルダム、チューリヒ、バルセロナ、マドリード、ブリュッセル、ヒューストン、ワシントン、ローマなどでオペラの美術・衣裳デザインを手掛ける。オペラ以外に英国ロイヤルバレエ、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニー、ナショナル・シアター、ロイヤルコート、アルメイダ、ヤングヴィックでも活躍。1988年オリヴィエ賞受賞。1998年「ライオンキング」でトニー賞受賞。ロイヤル・デザイナー・フォー・インダストリー (RDI)。2003年、プラハ・カトリエンナーレで金賞受賞。最近の作品に、アメリカン・バレエ・シアター『くるみ割り人形』、カナダ・ナショナル・バレエ及びボリショイ・バレエ『ロメオとジュリエット』、デンマーク王立バレエ団『金鶏』『ラ・バヤデール』、パレルモ・マッシモ劇場『ニーベルングの指環』四部作、ドンナー・ウェアハウス『ヴェルサイユ』、ラン歌劇場『Yumè』、リヨン歌劇場『ピーター・グライムズ』、グレンジ・パーク・オペラ『椿姫』、ロイヤルオペラ及びベルリン・ドイツ・オペラ『Morgen und Abend』、ナショナル・シアター『Common』、ロイヤル・デニッシュ・バレエ『ライモンダ』、バーミンガムオペラカンパニー『Wake』、ロンドン・プリントルームでの『The Outsider』がある。新国立劇場初登場。

**【照明】ルッツ・デッペ****Lighting Design : Lutz DEPPE**

写真家としてレコードレーベルの Wergo, Torofon, Weltwunderrecords や出版社の Du Mont, Prestel, Edition Cantz などでも8年以上活動し、ベルリン、ハノーファー、ケルンで展覧会に参加。1989～92年、ベルリンの複合施設「世界文化の家」カメラマンを務める。95年にダンサーのスザンネ・リンケのフィルム『Maerkische Landschaften』で初めて照明を手掛け、リヨン歌劇場『Lenz』で照明家ジーン・カルマンの助手を務める。その後、多くのダンス・カンパニー、演出家や作曲家の作品の照明を手掛ける。笈田ヨシの『The Maids』で2003年タイムアウト賞受賞。最近では EXPO2000、2003年のパリ・ミュージック・シティ、2010年ベルリン・エリザベス協会、ハンブルク美術館などで照明インスタレーションを発表。国内外で様々なワークショップを行っている。2003年よりチューリヒ、ベルリン、ノルウェー・フレドリクスタなど各地の大学で教鞭をとっている。新国立劇場初登場。

**【宗頼】高田智宏****Muneyori:TAKADA Tomohiro**

国立音楽大学音楽学部声楽科卒業、二期会オペラ研修所を経て、国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻(ドイツ歌曲)を首席で修了。2005年第4回静岡国際オペラコンクール「三浦環特別賞」を受賞。2006年第4回長久手国際オペラ声楽コンクール優勝。2003年より小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト IV～VIに参加し、ロッシーニ『セビリアの理髪師』フィガロのカヴァーキャストなどを務める。2007年9月よりキール歌劇場専属歌手として『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『エウゲニオ・オネーギン』タイトルロール、『ドン・カルロ』ロドリゴ他、多数の主役を務め主に海外を拠点に活躍中。近年、国内でも佐渡裕プロデュースオペラに主役で多数出演、15年の『椿姫』ジェルモン役では絶賛を博す。これまでにウーヴェ・ハイルマン、秋葉京子、野崎靖智の各氏に師事。2017年12月、ドイツ・シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州から宮廷歌手の称号を授与されている。ドイツ在住。

**【平太】大沼 徹****Heita:ONUMA Toru**

東海大学教養学部芸術学科音楽学課程卒業、同大学大学院修了。二期会オペラ研修所第51期マスタークラス修了。修了時に最優秀賞及び川崎静子賞受賞。10年秋よりドイツ・マイセンへ留学。09年第14回日本モーツァルト音楽コンクール声楽部門第1位。第21回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。オペラでは『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、東京二期会『サロメ』ヨハナーン、『オテロ』イアーゴ、『魔笛』パパゲーノ、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナールなどに出演。新国立劇場では『サロメ』2人のナザレ人1とカッパドキア人、『沈黙』ヴァリニャーノ、『魔笛』弁者、『トスカ』アンジェロッティ、鑑賞教室『蝶々夫人』シャープレス、『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィデリオ』囚人2など出演多数。二期会会員。



【うつろ姫】清水華澄**Princess Utsuro:SHIMIZU Kasumi**

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてポロニーヤに留学。二期会に『仮面舞踏会』ウルリカでデビュー後、『アイダ』アムネリス、『フィガロの結婚』マルチェリーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『ドン・カルロ』エボリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチーナなどで高い評価を得る。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『神々の黄昏』第二のノルン、『チェネントラ』ティーズベ、『オテロ』エミーリアなどに出演、特に平成22年度高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』では急遽タイトルロールに出演して大絶賛された。2012年の日中国交正常化40周年記念『アイダ』(コンサート形式)では東京公演、北京公演ともアムネリスに出演し注目を集めた。2015年10月『ラインの黄金』フロスヒルデ、16年4月『アンドレア・シェニエ』バルシ、17年4月『オテロ』エミーリアに出演。二期会会員。

**【千草】臼木あい****Chigusa:USUKI Ai**

東京藝術大学卒業。同大学大学院修士課程・博士後期課程修了。博士号(音楽)取得。二期会オペラ研修所第47期マスタークラス修了。安宅賞・松田トシ賞・三菱地所音楽賞受賞。第72回日本音楽コンクール第1位。06年ザルツブルクのモーツァルトウム音楽院に留学。国内では東京二期会『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、日生劇場(及び韓国公演)『夕鶴』つう、『ヘンゼルとグレーテル』(プレーメン劇場版)グレーテル、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『ラ・ボエーム』ムゼッタ、日生劇場開場50周年記念『リア』コーディアリア、狂言演出による『リヴィエッタとトラッコロ』リヴィエッタ、北とびあ国際音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ等を演じる。新国立劇場にはバレエ公演『カルミナ・ブラーナ』ソプラノソロ、オペラ鑑賞教室『カルメン』フラスキータ、同鑑賞教室・関西公演『愛の妙薬』アディーナに出演。「NHKニューイヤーオペラコンサート」などコンサートでもソリストとして活躍している。二期会会員。

**【藤内】村上敏明****Tonai:MURAKAMI Toshiaki**

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。01年12月より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間ポロニーヤに留学。第9回バタフライ世界コンクール・グランプリなど受賞多数。これまでに『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演。新国立劇場では『黒船-夜明け』領事、『修禅寺物語』源左金吾頼家、『ドン・カルロ』レルマ伯爵/王室の布告者、鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートン、鑑賞教室『椿姫』アルフレード、鑑賞教室『愛の妙薬』ネモリーノ、『オテロ』ロデリーゴなどに出演。2018/2019シーズンは『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョにも出演を予定している。藤原歌劇団団員。

**【弓麻呂】河野克典****Yumimaro:KONO Katsunori**

東京芸術大学、同大学院修了。ドイツ政府給費留学生としてミュンヘン国立音楽大学で学ぶ。ジュネーブ国際音楽コンクール声楽部門第2位(1位なし)、ヘルトゲンボシュ国際音楽コンクール歌曲部門第1位など受賞多数。ライン音楽祭、ザルツブルク音楽祭、アムステルダム・コンサートヘボウをはじめ、ヨーロッパ各地でオペラ、リサイタル、宗教曲の公演に数多く出演。日本国内でも、主要オーケストラと数多く共演しており、また、歌曲のリサイタルも定期的に行っている。新国立劇場では、『魔笛』パパゲーノ、『ラ・ボエーム』シヨナール、『フィデリオ』ドン・フェルナンド、『道化師』トニオに出演している。

**【父】小山陽二郎****Father:OYAMA Yojiro**

愛知県立芸術大学卒業、同大学大学院及び研修生修了。94年愛知県新進芸術家海外研修費助成を受けて渡伊。ブダペスト国際音楽コンクール、ドニゼッティ・ロッシーニの声コンクール共に第2位。95年愛知県立芸術劇場『愛の妙薬』ネモリーノでデビュー。イタリア各地およびハンガリー国立歌劇場にて『セビリアの理髪師』『リゴレット』『ファルスタッフ』『チェネントラ』などで成功を収めるほか、藤原歌劇団『椿姫』『ルチア』などの主要な役で活躍し、『夢遊病の女』『ランスへの旅』はテレビ放映も行われた。新国立劇場では『軍人たち』ピルツェル、小劇場オペラ『幸せな間違い』ベルトラント、『フィガロの結婚』ハジリオなどに出演。藤原歌劇団団員。



文化庁委託事業「平成30年度戦略的芸術文化創造推進事業」

新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ

紫苑物語

全2幕〈日本語上演／日本語及び英語字幕付〉

創作委嘱作品・世界初演

【公演日程】2019年2月17日(日)14:00／2月20日(水)19:00／23日(土)14:00／24日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:16,200円・A:12,960円・B:8,640円・C:6,480円・D:3,240円・Z:1,620円

【前売開始】2018年10月20日(土)

原作	石川 淳	宗 頼	高田智宏
Original by	ISHIKAWA Jun	Muneyori	TAKADA Tomohiro
作曲	西村 朗	平 太	大沼 徹
Music by	NISHIMURA Akira	Heita	ONUMA Toru
台 本	佐々木幹郎	うつろ姫	清水華澄
Libretto by	SASAKI Mikiro	Princess Utsuro	SHIMIZU Kasumi
		千 草	臼木あい
指揮	大野和士	Chigusa	USUKI Ai
Conductor	ONO Kazushi	藤 内	村上敏明
演 出	笈田ヨシ	Tonai	MURAKAMI Toshiaki
Production	OIDA Yoshi	弓麻呂	河野克典
美 術	トム・シエンク	Yumimaro	KONO Katsunori
Set Design	Tom SCHENK	父	小山陽二郎
衣 裳	リチャード・ハドソン	Father	OYAMA Yojiro
Costume Design	Richard HUDSON		
照 明	ルッツ・デッペ		
Lighting Design	Lutz DEPPE		
振 付	前田清実		
Choreographer	MAEDA Kiyomi		
監 修	長木誠司		
Supervisor	CHOKI Seiji		
舞台監督	高橋尚史		
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito		
合唱指揮	三澤洋史		
Chorus Muster	MISAWA Hirofumi		
合 唱	新国立劇場合唱団		
Chorus	New National Theatre Chorus		
管弦楽	東京都交響楽団		
Orchestra	Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra		
芸術監督	大野和士		
Artistic Director	ONO Kazushi		

関連トークイベント

『紫苑物語』～一の矢「知の矢」——石川淳の原作からオペラへ——

2018年10月29日(月)18:30～ 東京大学駒場キャンパス 18号館ホール

出演:佐々木幹郎／西村朗／大野和士／長木誠司 入場無料(要事前申し込み) 詳細は劇場ウェブサイト

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,620円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。